

ビワ生育情報

第 1 0 報
千葉県農林水産部
令和 8 年 7 月号

本年は着花房率が平年より高くなりました。一方で、ほ場や品種によっては、寒害や高温障害(日焼け・紫斑症)の発生が多くみられました。

また、4月1日時点の果実の発育は平年並み～やや早い状況でしたが、4月以降は気温が高く推移したため、収穫期は平年より早くなりました。一方で、果実の大きさは平年より小さくなりました。

1 本年度産果実の特徴

(1) 収穫期

収穫期を表1に示した。暖地園芸研究所における収穫始期、盛期及び終期はそれぞれ、「楠」が5月18日、5月22日、5月25日、「大房」が5月26日、6月1日、6月5日、「田中」が6月1日、6月5日、6月9日であった。収穫盛期は「楠」は平年より9日、「大房」は4日、「田中」は7日早かった。また、前年と比較しても、3品種とも収穫盛期は4～6日早かった。

表1 収穫期(暖地園芸研究所)

品 種	収穫始期(月. 日)			収穫盛期(月. 日)			収穫終期(月. 日)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	5.18	5.26	5.21	5.22	5.31	5.26	5.25	6. 4	6. 1
大 房	5.26	6. 1	6. 1	6. 1	6. 5	6. 6	6. 5	6. 9	6. 9
田 中	6. 1	6. 8	6. 6	6. 5	6.12	6.11	6. 9	6.16	6.16

平年：平成8年～令和7年の平均

(2) 果実の大きさ

収穫果実の大きさを表2に示した。果重は「楠」が51g、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ69g、68gであった。「楠」は平年の100%、「大房」は87%、「田中」は94%であった。

横径は「楠」が4.5cm、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ5.0cm、4.8cmであり、3品種とも平年並みであった。縦径は「楠」は4.6cm、「大房」、「田中」は3地区の平均でともに5.4cmで、3品種とも平年並みであった。

果形指数は「楠」が0.96、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ0.93、0.88で、3品種とも平年並みであった。

(3) 果実品質

果実品質を表3に示した。糖度は「楠」が12.5、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ11.1、12.1で、「楠」、「大房」は平年並み、「田中」は平年より高かった。

酸度は「楠」が0.30、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ0.23、0.41で、3品種とも平年より高かった。

果肉硬度は「楠」が0.49、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ0.55、0.53で、3品種とも平年並みであった。

糖酸比は「楠」が42、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ48、30で、3品種とも平年より低かった。

(4) 病虫害及び生理障害の発生

本年は、果樹カメムシ類の果実への被害は平年より少なかった。一方、品種やほ場によっては高温障害(日焼け・紫斑症)が多く発生した。

(5) 収穫量

本年は着花房率が平年より高かったものの、品種やほ場によっては寒害や高温障害(日焼け・紫斑症)の発生が多かった。果樹カメムシ類による被害は少なかったが、果重が平年より軽く、ほ場によっては6月上旬の台風の接近に伴う強風による落果も発生したため、収穫量は前年より少なかった。

表2 果実の大きさ

品 種	調査地点	果 重(g)			横 径(cm)			縦 径(cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
大 房	楠 暖地園研	51	51	50	4.5	4.5	4.4	4.6	4.8	4.7	0.96	0.94	0.92
	青 木	63	75	62	4.8	5.1	4.9	5.2	5.3	5.0	0.93	0.98	0.97
	南 無 谷	74	79	79	5.1	5.2	5.2	5.5	5.4	5.6	0.94	0.96	0.93
	暖地園研	71	83	79	5.0	5.3	5.3	5.5	5.5	5.5	0.93	0.97	0.96
	平 均	69	79	73	5.0	5.2	5.1	5.4	5.4	5.4	0.93	0.97	0.95
田 中	青 木	56	69	60	4.5	4.9	4.6	5.2	5.3	5.2	0.87	0.92	0.89
	南 無 谷	68	71	69	4.8	4.9	4.7	5.5	5.5	5.3	0.87	0.89	0.88
	暖地園研	80	77	80	5.1	5.1	5.1	5.6	5.5	5.7	0.91	0.92	0.90
	平 均	68	72	70	4.8	5.0	4.8	5.4	5.4	5.4	0.88	0.91	0.89

果形指数：横径／縦径

平均：3地区の平均値で平年値は平成8年～令和7年の平均。なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入しているため、表中の数値から計算した果径指数が表中の値と一致しない場合がある。

表3 果実品質

品 種	調査地点	糖度(Brix%)			酸度(g/100ml)			硬 度(kg)			糖酸比		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
大 房	楠 暖地園研	12.5	12.5	12.4	0.30	0.15	0.25	0.49	0.52	0.48	42	87	49
	青 木	11.7	11.0	11.9	0.27	0.15	0.22	0.54	0.56	0.52	43	77	55
	南 無 谷	10.7	10.7	10.0	0.22	0.18	0.32	0.56	0.56	0.56	48	67	31
	暖地園研	10.9	11.4	11.2	0.20	0.18	0.16	0.56	0.58	0.54	53	64	68
	平 均	11.1	11.0	11.0	0.23	0.17	0.23	0.55	0.57	0.54	48	70	51
田 中	青 木	13.3	11.3	11.9	0.47	0.31	0.31	0.54	0.54	0.48	28	39	38
	南 無 谷	10.6	10.5	10.9	0.45	0.32	0.36	0.52	0.56	0.44	23	35	31
	暖地園研	12.5	11.9	11.8	0.31	0.30	0.35	0.52	0.56	0.50	40	41	33
	平 均	12.1	11.3	11.5	0.41	0.31	0.34	0.53	0.55	0.47	30	38	34

糖度：屈折糖度計の測定値、酸度：果汁100m l中の酸含量をリンゴ酸(g)に換算した値

硬度：果実硬度計による測定値、糖酸比：糖度／酸度

平均：3地区の平均値で平年値は平成8年～令和7年の平均(ただし硬度は平成12年～令和7年の平均)。なお、糖酸比の平年値は各年の糖酸比の30年分の平均値であるため、表中の数値から算出した値と一致しない。

2 最近1年間の気象及びビワの生育状況

令和7年7月～令和8年6月までの月別の気象を表4に示した。年平均気温は17.5℃で、平年より1.3℃高く、前年より0.3℃低かった。降水量は年合計1,682mmで、平年の91%、前年の101%であった。日照時間は年合計が2,178時間で、平年の109%、前年の96%であった。

令和7年6月～8月にかけて日照時間が平年より長く推移したため、着花房率は平年より高くなった。出蕾期は平年並みであったが、その後の花房の発育は遅く、12月1日時点では開花は平年より遅かった。12月～1月中旬の気温が平年より高く推移したため開花が進み、「大房」、「田中」の開花終期は平年よりやや早く、開花期間は平年より短かった。4月1日時点の果実の発育は平年並み～やや早い状況であったが、4月以降の気温が高く推移したため、果実の発育が進み、収穫期は平年より早くなった。

表4 令和7年7月～令和8年6月の気象（アメダス館山市）

年	月	気温（℃）			降水量（mm）			日照時間（hr）		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
R7	7	27.6	25.2	27.9	52	179	103	264	179	252
	8	28.4	26.7	28.7	29	103	238	272	218	237
	9	26.3	23.7	26.7	135	222	141	200	153	196
	10	19.5	18.6	21.3	212	258	224	78	137	128
	11	13.5	13.7	15.0	29	146	140	150	146	139
	12	10.1	8.9	9.6	94	91	5	168	164	223
R8	1	6.9	6.4	7.3	39	86	48	233	177	216
	2	8.8	7.0	6.9	146	82	31	172	155	211
	3	11.3	10.1	11.5	157	161	245	176	165	182
	4	16.6	14.5	15.5	211	156	178	154	179	174
	5	19.9	18.5	18.9	128	153	205	223	188	120
	6	21.6	21.6	24.1	452	215	113	88	135	190
平均/計		17.5	16.2	17.8	1,682	1,852	1,668	2,178	1,994	2,270

注1）平年：平成3年～令和2年までの平均

2）平均／計：平均気温（℃）は平均値、降水量（mm）及び日照時間（hr）は合計値を示す

3）表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合がある

3 8月～10月の作業

8月下旬～9月下旬はせん定及び施肥の時期となる。花芽は9月中旬頃には確認できるようになり、10月に入ると発育が進み、花房の形を表す。10月上中旬には摘房・摘らいの作業を行う。

（1）せん定

8月下旬～9月下旬に行う。徒長枝や混んでいる枝を間引いて、樹冠内部に光が入るようにする。作業の効率化を図るため、二段盃状形の樹形を目指し、低樹高化に努める。

（2）施肥

9月に基肥を施用して花房の伸長、充実を図る。耕土の浅い園では10a当たり成分量で窒素12kg、リン酸9kg、加里9kgを施用し、耕土の深い園では窒素11kg、リン酸9kg、加里7kgとやや少なめにする。

（3）摘房・摘らい

摘房は発育不良の花房や地表近くまで下垂している枝に着生した花房を間引き、1樹の全枝の約60%に花房を残す。

摘らいは花房基部から3段目までの小花梗の中から充実した2段を残して他を除去する。花房の長さが3～5cmの時に摘らいすることで、開花期間を延長させ、寒害の被害を受けにくくすることができる。

発行：千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室
電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。
<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/seiiku-zyoho.html>